

題目：参加者抽出方法の違いによる市民参加への参加率及び参加意図の比較：プラスチック資源循環型社会に向けた市民参加ワークショップの事例

氏名 高本真依子

指導教員 大沼進

近年、市民参加の参加者を無作為抽出するミニ・パブリックスが普及している。だが、無作為抽出では、日本では実際の参加率が3~5%程度と低いことが指摘されている。参加者が関心や問題意識の高い者に偏るのであれば、無作為抽出しなくとも、知人などのネットワークを介して募集しても良いとも考えられる。だが、募集方法の違いにより、参加者の当該問題に対する意見や、市民参加の場での発言内容が異なるかを直接比較した研究は見当たらない。そこで本研究は、参加者の募集方法の違いにより、市民参加への参加意図、当該問題に対する意見などが異なるかを明らかにすることを第1の目的とした。さらに、募集方法によらず、参加率の向上に繋がる要因も明らかにする必要がある。本研究では、選択的誘因として機能するエンパワーメントの期待と社会的ネットワークに着目し、市民参加への参加意図との関連を探ることを第2の目的とした。参加者の募集方法を独立変数として、無作為に抽出した無作為群、学生を起点に友人や家族、知人を介して募集したスノーボール群、環境活動に携わる人を介して募集した環境ネットワーク群の3条件を用意した。質問紙調査を実施し、その際、「プラスチック消費を考える市民参加ワークショップ」への参加を呼びかけた。連絡先の提供があった回答者にはワークショップの招待状を送付し、ワークショップを実施した。その結果、質問紙の回収率や連絡先の提供率、ワークショップ当日の参加率は、3つの条件間で有意な差が見られず、ワークショップへの参加意向表明率は、環境ネットワーク群は無作為群やスノーボール群よりも高かったが、無作為群とスノーボール群の間には違いが見られなかった。質問紙調査の分析では、環境ネットワーク群は、無作為群やスノーボール群よりも社会参加が多かったが、無作為群とスノーボール群の間には違いが見られなかった。また、エンパワーメント期待が高いほど市民参加の参加意図や参加意向が高く、スノーボール群で参加意図や参加意向に負の効果が見られた。ワークショップ当日の発言から、無作為群は他の群と比べ、多様な特性が見られた。ただし、標本数が少なく、当日の参加者も僅かであったため発言内容は十分に比較できなかった。無作為抽出でも参加率や参加意図、及びその関連要因が低いわけではなかったことから、無作為抽出による選出には意義がある可能性が示唆された。